

あの人この人

馬に魅せられて



梶間啓一さん（端気町）

日頃、私たちは大型動物に触れる機会があまりない生活をしていますが、端気町の南、桃の木川のすぐ近くにある牧場に馬がいるのをご存知ですか。

オーナーの梶間啓一さんは、昭和44年生まれの方です。小学生の頃から馬が大好きで、5年生の時には「赤城乗馬クラブ」に所属していたそうです。現在、元牛舎を利用して馬20頭の飼育や管理をしています。半数ほどが馬主さんから管理を委託されている馬で、乗馬を楽しむ方から競技大会に出場するレベルの方が牧場を訪れるそうです。馬種はサラブレッド系が多く、ドイツ・オランダ・ベルギーなど、ヨーロッパ

パからはるばるやって来た馬もいて、乗馬が出来るまでに慣らすのは大変な仕事です。馬の体調管理や運動などで気の抜けない毎日を送る中で、人と馬が良好な関係を築くための環境を整えることに注力しています。たくさんの人に馬の素晴らしさを知ってもらうために乗馬教室も開催しているそうです。

また、大学時代に所属していた馬術部から国体に出場し、4年生の時には優勝した経験も持ちます。

馬の歴史についても大変くわしく話していただきました。馬と人間の関わりはとても古く、現代馬の祖先は、約100万年前に地中海沿岸のイタリヤあたりには生息していた野生種で、農耕や移動手段として北へ東へと増えていきました。紀元前頃からは、軍用馬や競技馬として利用され、モンゴルや中国などで、環境に適応しながら改良が重ねられてきました。日本では、縄文時代初期頃に家畜となったことなど、馬に関する幅広い知識をお持ちです。

お話の最後に、愛情を注いで育てた馬と対話し、心を通わせながら乗ることは、特別な感覚だと教えていただきました。

子どもの頃の夢は、努力によって叶うものなのですね。天気の良い穏やかな日に、近隣の保育園児が散歩がてら馬を見に来て歓声をあげていました。

文責 端気町生涯学習奨励員 小林たつ子

前橋市立図書館芳賀分館だより

あたらしく入った本の紹介

一般書

著者名

愛なき世界

三浦しをん

七つの試練

石田 衣良

影ぞ恋しき

葉室 麟

TAS特別師弟捜査員

中山 七里

漂砂の塔

大沢 在昌

信長の原理

垣根 涼介

地球星人

村田沙耶香

鳥居の密室

島田 莊司

対岸の家事

朱野 帰子

児童書・絵本

おしりたんてい（みはらしそうのかいじけん）

おぼけのソッチぞびぞびオーディション

若おかみは小学生

おいもころころ

ともだちドロボー

あいことばは名探偵

日本のおかしな現代妖怪図鑑

くほかにもたくさん新刊が入りました

★毎週木曜日は休館日です。

★臨時休館11月10日（土）11日（日）

（「芳賀ふるさとまつり」開催のため）

★臨時開館11月8日（木）15日（木）

午前10時～午後5時まで

◆秋の読書週間（10月27日～11月9日）

「ホッと一息、本と一息」